

殺虫殺菌剤

スタウト® ダントツ® 箱粒剤08

クロチアニジン.....0.8%
イソチアニル.....2.0%

種類名／クロチアニジン・イソチアニル粒剤
農林水産省登録／第22699号(住友化学登録)
毒性／普通物*
有効年限／5年
包装／1kg×12、10kg

特 長

- いもち病に高い効果のある有効成分スタウト（一般名イソチアニル）と水稻初期害虫（イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ）の防除に定評のあるダントツ（一般名クロチアニジン）との混合箱粒剤です。
- 幅広い時期での使用が可能です。
・は種前（床土混和・覆土混和）から移植時まで使用可能です。
- 移植水稻、湛水直播水稻でも使用可能です。
- 稲に対して安全性が高いことが確認されています。

適用病害虫と使用方法

使用にあたっては必ずラベルを読んで下さい。

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	総使用回数*	使用方法
稲	いもち病 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ	1kg/10a	移植時	本剤 1回 クロチアニジン剤 4回 [直播では種時又は移植時までの処理は1回、 本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回] イソチアニル剤 3回 [直播では種時又は移植時までの処理は1回、 本田では2回]	側条施用
湛水直播水稻			は種時	本剤 1回 クロチアニジン剤 4回 [は種時までの処理は1回、 本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回] イソチアニル剤 3回 [は種時までの処理は1回、 本田では2回]	は種同時施薬機を用いて土中施用する
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネヒメハモグリバエ	育苗箱 [30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ] 1箱当り 50g 高密度に は種する場合は 1kg/10a 育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り 50～100g	は種前	本剤 1回 クロチアニジン剤 4回 [移植時までの処理は1回、 本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回] イソチアニル剤 3回 [移植時までの処理は1回、 本田では2回]	育苗箱の床土又は 覆土に均一に 混和する

(つづ)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	総使用回数*	使用方法			
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イネミズソウムシ イネドロオウムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネヒメハモグリバエ	育苗箱 〔30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ〕 1箱当たり50g	は種時 (覆土前) ～移植当日	本剤 1回 クロチアニジン剤 4回 〔移植時までの処理は1回、 本田での散布、空中散布、無人航空機散布は 合計3回〕 イソチアニル剤 3回 〔移植時までの処理は1回、 本田では2回〕	育苗箱の上から 均一に散布する			
		高密度に は種する場合は 1kg/10a 〔育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当たり 50～100g〕						
	イネクロカメムシ	育苗箱 〔30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ〕 1箱当たり50g	移植当日		本剤 1回 クロチアニジン剤 4回 〔移植時までの処理は1回、 本田での散布、空中散布、無人航空機散布は 合計3回〕 イソチアニル剤 3回 〔移植時までの処理は1回、 本田では2回〕	育苗箱の上から 均一に散布する		
		高密度に は種する場合は 1kg/10a 〔育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当たり 50～100g〕						
	苗立枯細菌病 苗腐敗症 (もみ枯細菌病菌)	育苗箱 〔30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ〕 1箱当たり50g	は種前				本剤 1回 クロチアニジン剤 4回 〔移植時までの処理は1回、 本田での散布、空中散布、無人航空機散布は 合計3回〕 イソチアニル剤 3回 〔移植時までの処理は1回、 本田では2回〕	育苗箱の床土 又は 覆土に均一に 混和する
		高密度に は種する場合は 1kg/10a 〔育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当たり 50～100g〕						
育苗箱 〔30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ〕 1箱当たり50g		は種時 (覆土前)	育苗箱の上から 均一に散布する					
高密度に は種する場合は 1kg/10a 〔育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当たり 50～100g〕								

使用にあたって

■使用上の注意

- 使用量に合わせ秤量し、使いきってください。
- 床土または覆土に混和する場合、処理後速やかに使用してください。また、処理した床土または覆土を放置しないでください。

- 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植してください。
- 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5ℓ）1箱当りに乾粉として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの葉量を50から100gまでの範囲で調整してください。
- 側条施用する場合は、粒剤が均一に散布できる施用装置を装着した田植機を使用してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

■薬害

- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗等には薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
- 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはいないに行い、移植後田面が露出しないように注意してください。
- いぐさ栽培予定の水田では使用しないでください。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田ではいぐさを栽培しないでください。
- きく等の他作物に影響を及ぼす場合がありますので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布してください。また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさけてください。

■安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けてください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。

■貯蔵上の注意

- 密封し、直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に保管してください。

本資料の記載内容は2025年10月15日現在の登録内容に基づいています。